

孫が成人の日を迎え、式典に参加する日の朝に、「いろいろ有難うございました。今日、成人式を迎えます」ときりりとした表情で、スーツの胸に白バラを刺して、祖父母の私たちに「挨拶」に来てくれました。あんなにあどけなく、可愛かった孫が、こんなに立派に成長して、感無量です。おめでとうございます。しばし、「成人の日」を迎えた感想、感慨、希望を話していきました。



現在、数学専攻の学生として、毎日東京の大学まで通学しています。勉強はさほど苦勞はないものの、余暇を楽しむ余裕がない、ということでした。家に帰り、ほっとして、ダラダラ過ごすのが、息抜きだということで、驚いてしまいます。孫の大学は、「卒業するのが大変だという噂ですよ、学生達は皆シーンとして、勉強ばかりしている」と私の妹が教えてくれたことがありました。真偽のほどは分かりませんが、なにか、可哀そうな気がします。目下、大学と家のピストンだけらしく、あながち嘘でもなさそうです。若い日々を楽しく、有意義に過ごしてほしいと、心から願っています。本人は将来「数学に基づいた考え方を利用して、仕事をしたい」と言っています。

孫は自分の関心のある世界に積極的に飛び込む人間です。信仰も自分の問題と捉え、洗礼を希望したのは高校生の時でした。社会への関心もあります。学校が企画した東日本大震災の支援活動に2回参加しました。幼いころから、自分の父親が関わっている寿町の越冬支援活動にもついて行っていました。この暮もホームレスの人々へ毛布や年越しそばを配って歩いたと言います。「**喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。**（ロマ 12:15）」という聖書の言葉から、自分の名前を付けてもらったという気持ちを忘れていない人です。

一方、とても呑気で、自分の世界に浸りきって楽しみ、つい、そちらに気を取られて、うっかり、という椿事に見舞われる人でもあります。笑うに笑えない失敗談、冒険談がついて回るのは仕方ありません。小さいときは、この孫と本当によく遊んだものでした。どれだけ楽しい思い出をもらったことが、と孫を与えられたことを心から感謝するものです。

同時に、孫たちはどんどん成長し、彼らの世代の関心に、どれだけ理解や共感を示せるかが、難しくなってきました。まず、孫の最大の関心事、数学は、私には理解不能、意味不明になりました。私は高校時代に、微分積分でギブアップ。数字でさえも、新聞で見かける数字は桁が大きすぎます。実態を想像するのも難しく、理解できないことが多いのです。現在は毎日の家計簿の数字の扱いが、唯一、数字との関係です。それも、エクセルで計算してもらうので、退化するばかりです。

また、孫は自分の考えていることを家ではあまり口にしないので、何を考えているのかを、つい「聞きただす」という形になることが多く、私は反省しています。孫たちがいつでも、自由に、自発的に、考えを言えるようになってほしいと願っています。そういう世界であるために、私は老骨に鞭打って、ものを言おう！と思っています。今は、時々、息子家族全員と一緒に食事し、楽しく過ごすだけです。そのうち、お世話してもらうことになるのでしょうか…。その節は、よろしくネ！



この日の記念に写真を撮りました。「少し右側に動いて」というと、「時々、右と左という言葉に反応できない」と白状しました！孫は運転免許を取ろうとしていますが、右左にアタフタしている模様です。なんと、これは隔世遺伝！私にそっくり！ヤッパリ、私の孫だっ！とびっくりするやら、残念な気持ちになるやら。ママがお祝いにお赤飯を持たせてくれました。栗きんとん、奈良漬け、フカヒレスープでうれしいランチになりました。